

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府茨木市宇野辺1丁目1-47	氏名	日世株式会社 取締役社長 岡山 宏
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		食品製造業 生産品：ソフトクリーム関連資材の製造販売 本社（茨木市） 営業、管理機能。商品センター併設。 枚方工場（枚方市） ソフト・アイスクリーム用コーンの製造。 高槻工場（高槻市） ソフト・シェーク用フリーザーの製造。 スウェーデン阪急三番街店（大阪市） ソフトクリームメニューを中心とした店舗。  ※枚方工場 H29.2.24に生産終了し、以降事業所閉鎖業務実施後 H29.5月事業所閉鎖。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	4,726 t-CO <sub>2</sub>	4,009 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,945 t-CO <sub>2</sub>	4,187 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	3.6 %	0.4 %	-18.8 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.7 %	0.7 %	-18.6 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (枚方工場、生産品の生産個数)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

温室効果ガス総排出量は基準年度(H25年度)4,726t、第3年度(H28年度)4,009tで、基準年度比717tの削減。しかし、原単位とした製品個数は基準年度(H25年度)4160十万個、第3年度(H28年度)2972十万個で、基準年度比1188十万個の減少。生産個数の減少理由は工場移転の為、順次生産機械の移設を実施し、H29.2.24生産終了経緯によるものです。生産機減少に伴い照明の使用等、節電実施しましたが大幅な生産数量の低下に、共用設備(空調、照明等)の運転が比例せず、削減目標に至りませんでした。	
夏場ピーク時、デマンド監視による機械の分担運転実施。	

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

工場エネルギー担当が各々設備別エネルギー使用量を集計し管理標準に照らし合わせ分析し、無理無駄がないか確認しながらエネルギーの使用量の見直しを行っています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1218) 省エネ照明へ の入替	省エネ効果の高い照明器具に更新 (随時取替器具から省エネ効果の高いもの へ更新実施)	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 必要設定圧 力、能力の見 直し	コンプレッサーの効率運転の実施 (必要設定圧 力、能力の見直し) H28年度も無負荷運転を減らし効率運転 できる組み合わせで運転実施しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 給排気運転の 見直し	給排気設備の効率運転の実施 (負荷台数 に応じた運転を実施) H28年度も生産機の生産台数に応じた運 転を実施しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	枚方工場	コード (5121) CIPヒーター待機 運転の見直し	CIPヒーターの待機運転の見直し H28年度も、デマンドピーク時の運転停止を 実施しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) 集塵機のイン バーター設定値 の見直し	プレート集塵機のインバーター設定値の見直し	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	枚方工場	コード (5112) 蛍光灯器具に スイッチ施工	蛍光灯器具にキャピススイッチを取付不要時の 停止抑制を図る。 H28年度も、生産機の運転に応じた照明 器具を使用しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	枚方工場	コード (5121) コンプレッサー負荷 運転時間の見 直し	圧縮空気の使用量の多い機械を夜間時間 帯での使用へシフトする。 H28年度も、圧縮空気の使用量の多い機 械を夜間使用の限定で実施しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	枚方工場	コード (5115) ピークカット	浄化槽運転の一時的な停止 (ピーク時) H28年度も、デマンドピーク時、一時的に調 整槽ブローを停止しました。	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	枚方工場	コード (5111) ピークカット	人的影響の少ない空調機の一時的な停 止。 H28年度も、デマンドピーク時、一時的に空 調機を停止しました。	26 年度
	レ	人工排熱				26 年度
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1113) バックブロー運 転の運用改善	浄化槽 負荷変動によるブローをインバー ター運転を検討中	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	本社 枚方工場 高槻工場	コード(2122) 公共交通機関 の利用促進	移動先や、持参荷物の内容等から、可能 範囲で公共交通機関の利用を促進する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ				
2	レ	本社 枚方工場 高槻工場	コード(2123) エコドライブ の推進	無駄、ムラのないエコ運転を実施する。	26 年度 ～ 28 年度
	レ				

(3)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市新町12-27	氏名	二藤レール株式会社 代表取締役社長 阪本 薫
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に伸線製品の製造及び販売を行っており、大阪府内において4工場生産をおこなっている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日	～ 平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	11,227 t-CO <sub>2</sub>	10,554 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,955 t-CO <sub>2</sub>	11,237 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.1 %	-0.2 %	-1.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.1 %	-2.7 %	-1.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>原単位と密接な関係を持つ生産数量が前年比約2.1%増加しましたが、温室効果ガスの排出量は前年比約0.9%増に抑えることが出来ました。一定の省エネ活動の成果はみれましたが、前年比増加となり、まだまだ課題が残る結果となりました。生産数量の増減の影響で、3年間の削減目標も未達となりました。生産数量に囚われず、エネルギーが削減できるよう、継続的な運用改善を実施致します。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

省エネルギー推進委員会により、省エネ活動を推進・継続させ、結果の検証と継続的改善を行います。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	第4工場	コード(1121) 焼鈍炉ガス パーナ空気比 の適正化	焼鈍炉(1号炉・2号炉)において、バーナの燃焼状態を適正に調整・維持する。 平成26年度は2号炉の調整実施済	26年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				26年度
2	レ GHG排出	第4工場	コード(1221) 吸熱式ガス発生熱源の都市ガス化	吸熱型ガス発生装置において、電気加熱方式から(都市)ガス加熱方式へ更新し、併せて排熱回収を行う。 平成27年度、28年度未対策	27年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				28年度
3	レ GHG排出	第3工場	コード(1122) 乾燥方式の責 成化	乾燥炉において、乾燥温度・風量等の制御及び設備の改善により、省エネ効果の高い	26年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				26年度
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード(1114) 運転時間の適 正化	エアコンプレッサーなどの電動機の駆動を最適に行えるよう運転制御、管理を実施する。 平成26年度コンプレッサー1台で運転制御	26年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				26年度
5	レ GHG排出	第3工場	コード(1121) 燃料の選択	電気式熱風発生炉の熱源の都市ガス化。 平成27年度、28年度未実施	27年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				28年度
6	レ GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 照明設備の LED化	全事業所の照明設備をLED化 平成27年度、28年度未実施	27年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				28年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード(2123) エコドライブ の推進	トラック、営業車の全車がエコドライブを 実施している。	26年度
	レ 人工排熱				～
	レ 平準化				28年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	千葉県市原市姉崎海岸 6 番地	氏名	日本板硝子ビルディングプロダクツ (株) 代表取締役社長 井澤 尚
特定事業者の主たる業種		21 窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 1 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 2 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 3 号イ又はロに該当する者	
事業の概要		板ガラスの二次加工を行っています。 ガラス切断・ガラス縁磨きの加工及び強化ガラス・複層ガラスの製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
平成	26 年	4 月	1 日	～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	3,455 t-CO <sub>2</sub>	3,186 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	3,820 t-CO <sub>2</sub>	3,525 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率 (原単位ベース)	5 %	8.5 %	8.2 %
削減率 (平準化補正ベース)		— %	8.1 %	8.3 %	11.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 八尾センターでの生産平米 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>設備状況は昨年と変わらないが、電力デマンド値を昨年より100kw抑えて電気使用を運用した。より一層電気使用の効率化を進めて温室効果ガスの削減に努めます。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境マネジメントシステムを導入。H16年にISO14001を認証取得。  
 推進体制：社長をトップに環境管理責任者、環境管理室、環境管理委員会を設置して各部の目的、目標の達成を支援しています。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	八尾センター	コード(1113) 強化炉ヒーター週末停止	強化ガラス炉において、休日も保温状態で待機中としているが、週末ヒーターのOFFを行う。 削減効果：年間36千kwh CO2換算 18t-CO2の削減	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	八尾センター	コード(1126) 強化炉搬送ドライブのインバーター運転	強化ガラス炉のシステム更新、搬送ドライブをインバーター制御に変更する。 削減効果：年間15千kwh CO2換算 9t-CO2の削減	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	八尾センター	コード(1113) コンプレッサー運転の合理化	37kwコンプレッサーの稼働をリザーブタンクの共有で2時間抑制する。 削減効果：年間18千kw CO2換算 10t-CO2の削減	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	八尾センター	コード(5121) 昼間のピーク電力調整	電力を抑えて製造する事が出来る強化製品を13時～16時の3時間に製造し、昼間のピーク電力を抑える。調整量500kw。	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	八尾センター	コード(1126) 熱風循環ブロワのインバーター運転	強化ソーク炉の熱風循環ブロワー30kw1台をインバーター制御に改造して消費電力量を削減する。削減効果：年間84千kwh CO2換算 43t-CO2の削減	27 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	八尾センター	コード(1218) 工場棟水銀灯の更新	工場棟の水銀灯をワット数の少ない機器に更新する。	28 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	八尾センター	コード(1111) 製造ラインの見直し	製造ラインの削減。 削減効果：年間120千kwh CO2換算 62t-CO2の削減	26 年度 ～ 27 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	八尾センター	コード(1113) 250kwコンプレッサー1台運転	250kwコンプレッサー2台運転を製品製造条件を見直して1台運転にする。 削減効果：年間120千kwh CO2換算 62t-CO2の削減	27 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	八尾センター	コード(1218) 構内外灯をLED照明に更新	構内外灯400kw4灯をLED照明に更新する。5t-CO2の削減	28 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1			コード		年度
	GHG排出				～
	人工排熱				年度

(3)その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	神奈川県川崎市川崎区東扇島24	氏名	公益財団法人日本食肉流通センター 理事長 小林 裕 幸
特定事業者の主たる業種		69不動産賃貸業・管理業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		①部分肉の取引情報・価格公表事業 ②部分肉を流通促進させるための大型冷蔵冷凍倉庫の整備及び、食肉卸売業者等への施設の貸付事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,168 t-CO <sub>2</sub>	4,649 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,671 t-CO <sub>2</sub>	5,118 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	5.2 %	5.9 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	5.2 %	5.8 %	9.8 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

基準年度(平年25年度)に比べ、第3年度(平成28年度)は、10.1%の削減率になり削減目標を上回った。使用量減少の主な要因は大型冷蔵冷凍倉庫施設にかかる冷凍機を省エネタイプかつ冷媒R22から自然冷媒(CO2)を利用した冷却設備機器へ更新をしたこと及び事務室内空調機を省エネタイプのものに更新したこと。また、加工を行う入居者が退去し、加工室が5月から10月まで空いていたこと。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居者を対象に、通勤用乗合バスの運行や、省エネルギーについての啓蒙活動を実施している。</li> <li>・入居者に対して節電マニュアル等を作成し情報提供を実施している。</li> <li>・入居者別に年間電気使用量を提示しさらなる電気使用量削減に努める。</li> <li>・施設の整備及び改修工事を実施する。</li> </ul>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪事業部	コード (1112) 電気使用量実態把握	入居者を対象として、電気使用量の実態を把握してもらい、さらなる節電意識を高める。	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	大阪事業部	コード (1215) 冷凍機の更新	大型冷蔵冷凍倉庫施設にかかる冷凍機を省エネタイプかつ冷媒R22から自然冷媒(CO2)を利用した冷却設備機器へ更新をする。 (平成28年度更新を実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	大阪事業部	コード (1216) 事務室内空調機の更新	入居者の事務室内及び共用施設空調機を省エネタイプに随時更新をする。 (随時更新を実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	大阪事業部	コード (5112) 照明設備の更新	大型冷蔵冷凍倉庫施設に設置している白熱灯照明器具を省エネ高効率の水銀灯・LED照明器具に更新を行う。 (随時更新を実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	大阪事業部	コード (1114) オーバードアの改修工事	ドッグシェルター附帯設備であるオーバードアを改修し夏季の冷氣漏れを防ぐ改修工事を行う。 (平成27年度一部更新を実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	大阪事業部	コード (1211) ボイラー設備の更新	燃焼効率かつ低燃費のボイラー設備へ更新をする。 (平成28年度部品交換を実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪事業部	コード (2123) エコドライブの推進	社用車を使用する職員に対し、無駄なアイドリングを行わない様指導を行う。	26 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				

(3) その他の抑制対策


## 実績報告書

	届出者住所	東京都千代田丸の内2-7-3 東京ビルディング21階	氏名	日本プロロジスリート投資法人 執行役員 坂下 雅弘
特定事業者の主たる業種		47倉庫業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、物流施設倉庫の賃貸借業を行っている会社で全国に24物件を展開し、うち大阪府下に4物件を展開しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	4,282 t-CO <sub>2</sub>	4,691 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,128 t-CO <sub>2</sub>	5,298 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	-20.6 %	12.8 %	31.8 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	-13.7 %	13.7 %	35.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記す)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府下の物件 総延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>■消費電力の大きい照明器具のLED器具への変更を進めるとともに、運用面で共用部の照明の不要時の消灯、昼間時の窓側照明の消灯を実施し、温室効果ガスの削減に努めています。</p> <p>■CO2排出係数の低い電力事業者からの電力供給に切り替え、温室効果ガスの削減に努めています。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

■統括管理者と企画推進者にて省エネ対策の進捗状況を確認しながら改善を検討するとともに、各事業所毎に年に1度、地球温暖化防止に関わる研修会を実施していきます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	プロロジス パーク大阪2	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【対策実施済】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・車路照明のLED化 ・▲20[t-CO2/年]	27 年度 ～ 28 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	プロロジス パーク大阪2	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【対策実施済】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・共用部照明LED化(ランプ、レストラン、 事務所) ・▲25[t-CO2/年]	28 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	プロロジス パーク舞洲3	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【対策実施済】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・共用部照明のLED化(ランプ、レストラン、 車路等) ・▲12[t-CO2/年]	28 年度 ～ 29 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	プロロジス パーク舞洲3	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の変更】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・外構のLED化 ・▲10[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	プロロジス パーク舞洲3	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の追加】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・専用部照明(3F)のLED化 ・▲25[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	プロロジス パーク舞洲3	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の追加】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・専用部照明(4F)のLED化 ・▲10[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	プロロジス パーク大阪2	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の追加】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・専用部照明のLED化 ・▲80[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	プロロジス パーク大阪2	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の追加】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・共用部照明(廊下)のLED化 ・▲11[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	プロロジス パーク大阪4	コード(1218) 照明設備LED化 工事	【計画の追加】 ・省エネ効果の高い照明設備(LED)に 更新する事により、省エネを図る。 ・専用部照明(1F)のLED化 ・▲66[t-CO2/年]	29 年度 ～ 32 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(3)その他の抑制対策
